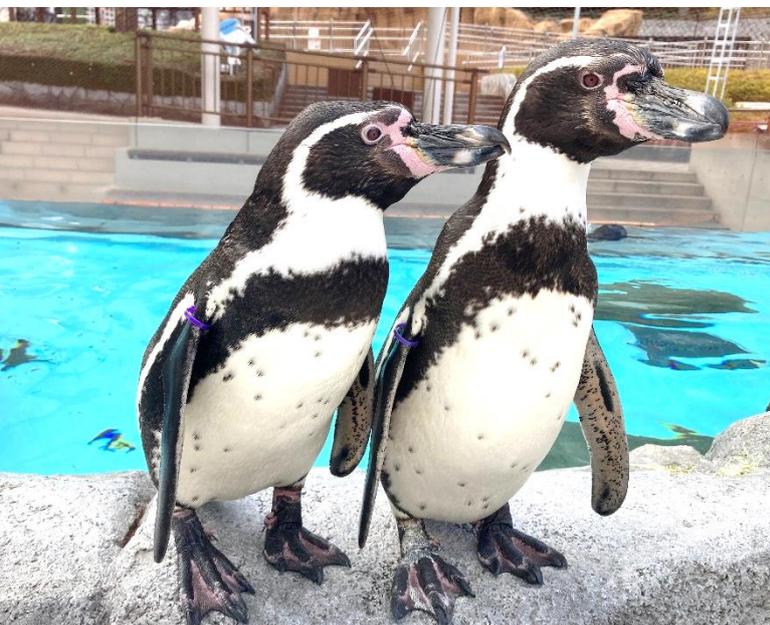


とべ動物園 2024 飼育係の研究活動報告会



2024年2月25日(日)

参加無料

定員60名

とべ動物園ふれあいセンター2F

13:30~14:30

(開場13:15)

「フンボルトペンギンの飼育管理について」

村上 郁



「エランドの導入から同居、繁殖に向けたトレーニング」

大野 綾菜



※動物園への入園料は必要です。

※次回入園料が無料になる特別入園券をプレゼントいたします。

問い合わせ

公益財団法人 愛媛県動物園協会(愛媛県立とべ動物園)

〒791-2191 愛媛県伊予郡砥部町上原町 240

電話:089-962-6000

ファックス:089-962-6194

メール:info@tobezoo.com

ペンギンの飼育管理について

村上 郁

とべ動物園では現在 22 羽（オス 14 羽メス 8 羽）のフンボルトペンギンを飼育している。動物たちも病気や怪我をすることがあるため、毎日の健康観察に加え定期的に健康管理を行っている。定期的な健康管理では、体重測定や足裏の確認を実施している。

体重測定は週に 1 回行っており、動物自ら体重計に乗るように練習した。捕まえることなく行うことで、動物にかかる負担が少なくなった。ペンギンは換羽期など時期によって体重変化が大きく、この体重測定の結果をもとに摂餌量や投薬量を決定している。

足裏の確認は月に 1 回行っている。飼育下のペンギンは「趾瘤症」と呼ばれる足裏の炎症がしばしば見られる。趾瘤症の原因は様々で、過体重、運動不足、不適切な床材などがあげられる。趾瘤症は進行性で、場合によっては死に至ることもあり、早期発見が重要である。当園のフンボルトペンギンは足裏に浅い擦過症や変色があるのみで、重度の趾瘤症は発症していない。進行を予防するため、地面が平らな部分には人工芝を敷き、足裏にかかる加重の分散を図っている。また新たな刺激を与え水中で過ごす時間を増やすことを目的に、エンリッチメントツールとしてゴムボールを導入し行動を観察した。

今後もさまざまな角度からペンギンたちの健康状態を確認していきたい。



エランドの導入から同居、繁殖に向けたトレーニング

大野 綾菜



とべ動物園では、エランドの繁殖を目的として 2020 年 10 月にオス個体（ビツ 当時 1 歳）を東北サファリパークより導入した。間もなく、以前から当園で飼育していたメス個体（フィア 当時 8 歳）との同居を開始し、定期的な発情と繁殖行動が確認されていた。オスが 3 歳となり性成熟を迎えた頃の 2022 年 9 月にも繁殖行動を確認し、以後メスの発情が停止したため妊娠の可能性が示唆された。そこで、2023 年 4 月から腹部エコーによる妊娠判定を目指したトレーニングを開始した。6 月には計 5 回の腹部エコー検診をおこなったが妊娠時にみられるようなものは確認することができなかった。それと並行して乳房と陰部の観察も継続していたが、出産日が近づいても変化は見られず、結果として妊娠はしていなかった。

その後も 2022 年 9 月を最後に発情は確認されないままとなっており、発情が停止した原因を探るため採血に向けたトレーニングを 2023 年 7 月から開始した。採血は首から行う予定であり、最終的には首をこちらに向けて維持してもらった状態での採血を目指している。

今後の展望として、採血で得られた結果をもとに発情停止の原因を探り、発情の再開さらには繁殖へとつなげることができればと考えている。